

# YAMAHA

# 取扱説明書

\*ご使用前に必ずお読みください。

NATURAL SOUND COMPACT DISC PLAYER

# CDX-890

# CDX-590

# CDX-490

このたびはヤマハのCDプレーヤーをお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。ヤマハCDプレーヤーの優れた性能を十分に発揮させるとともに、未永くご愛用いただくために、この取扱説明書をご使用前にぜひお読みくださいますよう、お願いします。お読みになったあとは、保証書とともに保管してください。

本機は電気用品取締法に定める技術基準に適合しています

COMPACT  
disc  
DIGITAL AUDIO

# 安全上のご注意 (安全に正しくお使いいただくために)

ご使用前に必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みになり、正しくお使いください。  
またお読みになったあと、いつでも見られる所に必ず保存してください。

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

 <b>警告</b>		この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。	
設置されるとき		使用中に異常が発生したとき	
	本機に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。 表示された電源電圧交流100V以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。 本機を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。火災の原因となります。 電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。		電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
 <small>水場での使用禁止</small>	風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。	 	万一機器の内部に水や異物が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。万一、煙が出ている、変なおいや音がするなど異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。
ご使用になるとき			万一、本機を落としたり、キャビネットを損傷した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
	本機の上に水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。 本機の通風孔、ディスク挿入口などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。	<b>絵表示の例</b>  記号は注意(危険・警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。 <small>指を挟まれないよう注意</small>  ①記号は禁止の行為であることを告げるものです。 <small>分解禁止</small>  記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。	
 <small>分解禁止</small>	本機のキャビネットは絶対に外さないでください。感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。 本機を改造しないでください。火災・感電の原因となります。		



## 注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

設置されるとき		ご使用になるとき		
	<p>湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。</p> <p>ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。</p> <p>電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。</p> <p>直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。</p> <p>濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。</p> <p>電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。</p> <p>本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがありますので、次の点にご注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本機を押し入れ、本箱など風通しの悪い狭い所に押し込まないでください。</li> <li>・ テーブルクロスを掛けたり、じゅうたんや、布団の上に置かないでください。</li> </ul>		<p>接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。</p> <p>電源を入れる前には音量（ボリューム）を最小にしてください。突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。</p> <p>付属のリモコンに電池を挿入する場合、極性表示（プラス⊕とマイナス⊖の向き）に注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。</p>	
			<p>指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。</p> <p>レーザー光源をのぞき込まないでください。レーザー光が目にあたると視力障害を起こすことがあります。</p>	<p>指を挟まれないよう注意</p>
			<p>お子様がディスク挿入口に、手を入れないようにご注意ください。けがの原因となることがあります。</p>	
			<p>本機を設置する場合は、間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から5cm以上、背面から10cm以上のすきまを開けてください。</p>	
	<p>移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。また、CDディスクは取り出しておいてください。それを怠ると故障の原因となることがあります。</p>	<h3>お手入れについて</h3>		
			<p>1年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご相談ください。本機の内部にほこりのたまったまま、長い間掃除しないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行くと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店にご相談ください。</p>	
			<p>お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。</p>	

# 目次

特長	5
ご使用の前に	5
リモコンについて	5
各部の名称とはたらき	6
接続のしかた	9
基本的な演奏	10
一時的に演奏を止めるには	11
演奏を停止するには	11
好きな曲を聞くには	11
早送り、早戻しするには	11
音量を調節するには	12
曲を順不同に聞く(ランダム演奏)	13
繰り返し演奏する(リピート演奏)	13
好きな曲を好きな順序で聞く(プログラム演奏)	14
インデックス番号を指定して聞きたいところを演奏する(インデックスサーチ)	15
本機のプログラム機能を使ってテープ録音する(テーププログラム)	16
曲順を変えることなく、自動選曲録音したいときは	16
曲順を変えてテープ録音したいときは	17
本機に順不同に自動選曲させて録音したいときは	18
テープ録音に便利な機能について	19
オートスペースについて	19
ディスク内の最大の音量をさがす	19
ディスク演奏に合わせて自動的にテープ録音する(シンクロ録音)	20
設定した時間に演奏を開始する(タイマー演奏)	21
ディスクの取り扱い	22
故障かなと思ったら	23
参考仕様	23
ヤマハホットラインサービスネットワーク	24



これは電子機械工業会「音のエチケット」  
キャンペーンのシンボルマークです。

## 音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を開めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

## 保証書の手続きを



お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行ってください。保証書に販売店名、購入日などがありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがありますので、十分ご注意ください。

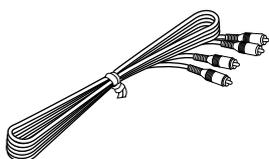
# 特 長

ヤマハオリジナルDAC使用による高音質設計  
オートディスプレイオフ機能による音質の向上  
(CDX-890、CDX-590)  
シンクロ機能により、デッキとの同期録音が可能

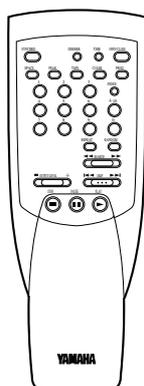
テープ録音に便利なテーププログラム機能およびオート  
スペース機能  
光と同軸の2系統のデジタル出力端子を装備  
(CDX-890、CDX-590)

## ご使用の前に

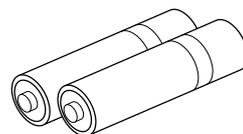
付属品を確認してください



出力コード (ピンプラグコード)



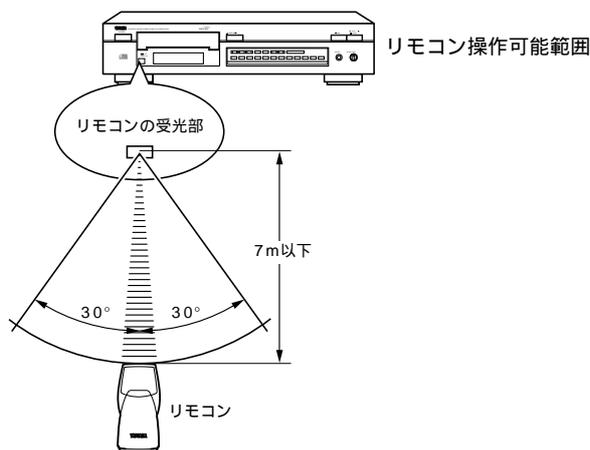
リモコンユニット



単3乾電池 (SUM-3) 2本

## リモコンについて

リモコン信号は直進性の高い赤外線を使っています。リモコンと本体受光窓の間に遮蔽物が入らないようご注意ください。



付属のリモコンは...

本機専用です。近くに他の機器が設置されていると、誤動作を起こすことがあります。リモコンによって誤動作をする機器があるときは、その機器の受光部をふさぐか、設置場所を変えてください。ていねいに扱ってください

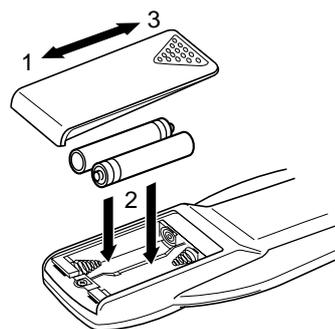
お茶や水をこぼしたり、落としたりしないでください。ストーブのそばや風呂場など、温度・湿度の高いところにも置かないようご注意ください。

リモコン受光部に、直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようご注意ください。

強い光が当たっていると、リモコンが動作しなかったり、動きにくくなります。

電池交換のしかた

- 1 リモコンの裏のふたをはずします。
- 2 単3型 (SUM-3) 乾電池を2個、プラス (+) とマイナス (-) の向きを、リモコンのケースの表示どおりに正しく入れてください。
- 3 電池をセットしたらカチッと音がするまでふたを閉めます。



電池交換の時期は？

リモコン操作できる距離が短くなってきたら電池が消耗しています。このときは、2本とも新しい電池に交換してください。

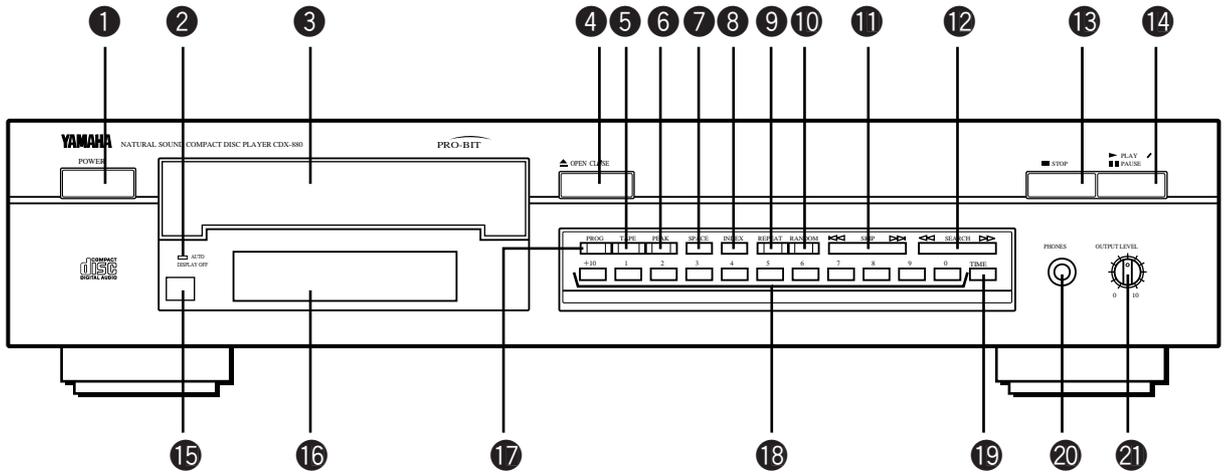
乾電池についてのご注意

- ・ 単3乾電池をご使用ください。
- ・ 新しい電池と、一度使用したものを混ぜて使用しないでください。
- ・ 種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- ・ 電池のプラス (+) とマイナス (-) を金属片で直接つなぐこと (ショート) はしないでください。
- ・ 長い間リモコンを使わないときは、電池を取り出しておいてください。
- ・ 万一液もれが起こったときは、電池入れについた液をよく拭き取ってから、新しい電池を入れてください。

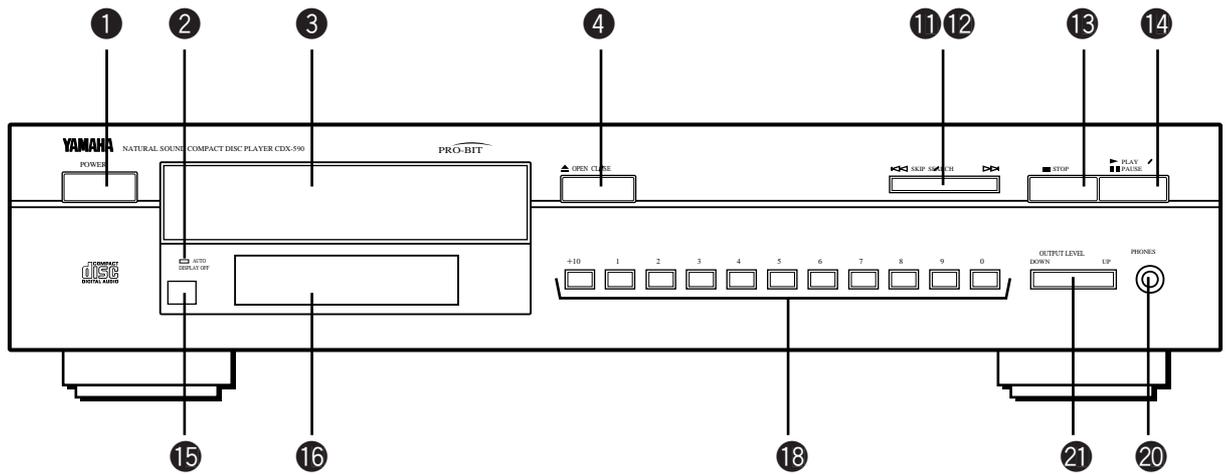
# 各部の名称とはたらき

## フロントパネル

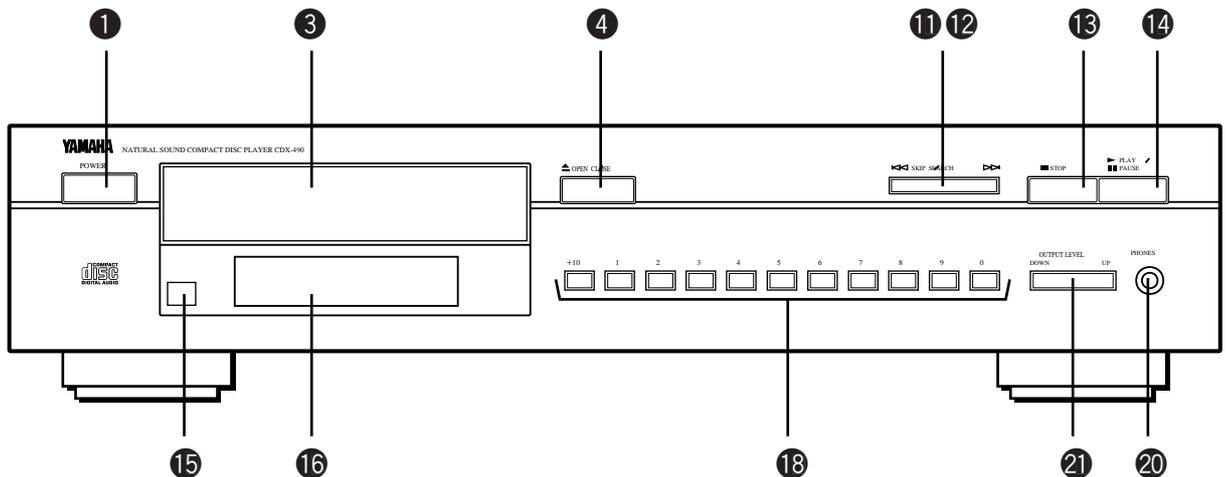
CDX-890



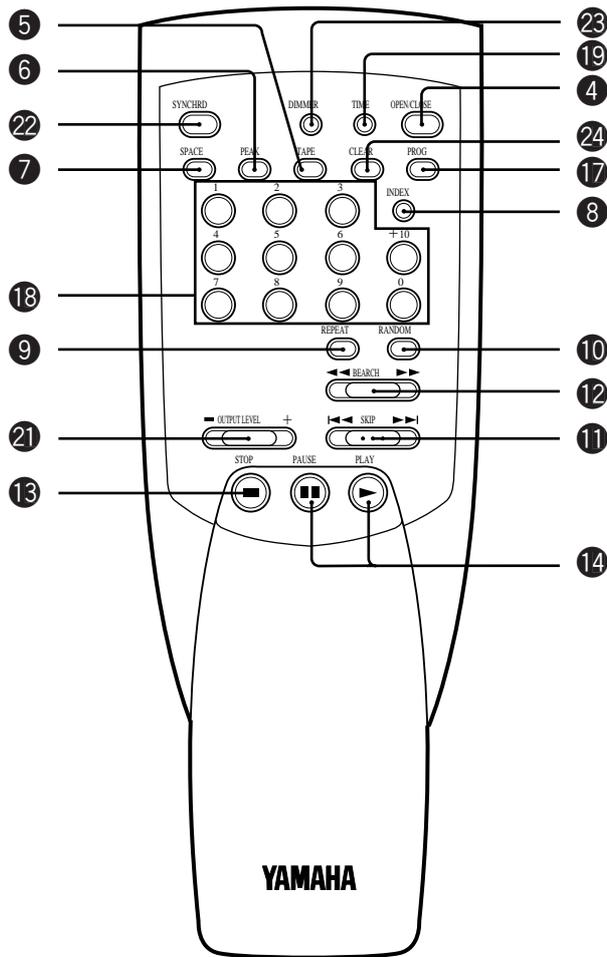
CDX-590



CDX-490



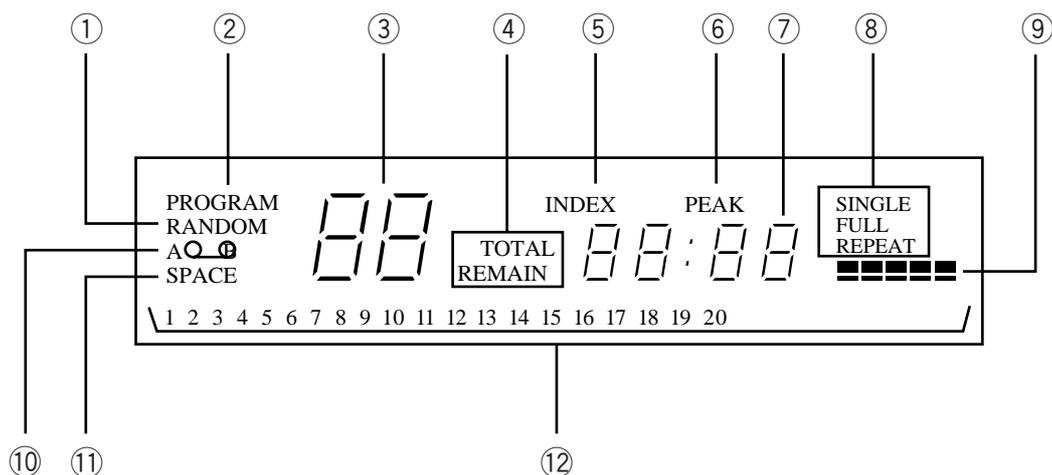
# リモコン



- ① POWER  
押すと電源が入り、もう1度押すと切れます。
- ② AUTO DISPLAY OFF インジケーター  
この部分はP. 12を参照してください。
- ③ ディスクトレイ  
ディスクをセットするところです。[OPEN/CLOSE] を押すと開き、もう1度押すと閉じます。  
ディスクトレイは手で軽く押ししても、[PLAY/PAUSE] や [RANDOM] または10キー（数字キー）を押しても閉じることができます。
- ④ OPEN/CLOSE  
トレイを開閉するとき押します。
- ⑤ TAPE  
テーププログラムの設定のときに使います。
- ⑥ PEAK  
ディスク内の最大音量をさがすときに使います。
- ⑦ SPACE  
曲間に4秒間のスペースを入れます。
- ⑧ INDEX  
インデックスサーチのとき押します。
- ⑨ REPEAT  
押すごとにシングルリピート演奏、フルリピート演奏、通常演奏と切り替わります。

- ⑩ RANDOM  
押すと順不同に曲を演奏します。
- ⑪ SKIP  
押すごとに曲の頭出しをします。  
この部分はP.11を参照してください。
- ⑫ SEARCH  
押している間、曲を早送り、早戻しします。  
この部分はP.11を参照してください。
- ⑬ STOP (■)  
演奏を止めるとき押します。
- ⑭ PLAY/PAUSE  
演奏をスタート/一時停止（ポーズ）させるキーです。停止状態のときにキーを押すと演奏がスタートし、演奏中に押すと一時停止（ポーズ）になり、もう1度押すと演奏がスタートします。また、リモコンでは▶PLAYと||PAUSEの2つに独立しています。
- ⑮ リモコン受光部  
付属のリモコンからの信号を受ける窓です。
- ⑯ ディスプレイ  
この部分はP. 8を参照してください。
- ⑰ PROG  
プログラムの設定や確認などに使います。
- ⑱ 10キー（+10、1~0）  
選曲やプログラムのセット時に曲番を指定するキーです。
- ⑲ TIME  
押すごとに時間表示を切り替えます。  
“表示なし”：演奏中の曲の経過時間  
REMAIN：演奏中の曲の残り時間  
TOTAL：ディスクの総演奏時間  
TOTAL REMAIN：ディスクの演奏残り時間
- ⑳ PHONES  
ヘッドホンを接続する端子です。
- ㉑ OUTPUT LEVEL  
CDX-890：つまみを右に回すとヘッドホンの音量と本機背面のLINE OUT VARIABLE出力端子からの音量が大きくなり、左に回すと小さくなります。  
LINE OUT FIXED端子につないだときは、音量調節できません。  
CDX-590、CDX-490：UPを押すとヘッドホンの音量と本機背面のLINE OUT VARIABLE出力端子からの音量が大きくなり、DOWNを押すと小さくなります。  
リモコンではUPのかわりに+、DOWNのかわりに-となっています。
- ㉒ SYNCRO  
カセットデッキと同期録音するときに使います。
- ㉓ DIMMER  
押すごとにディスプレイの明るさを切り替えます。
- ㉔ CLEAR  
プログラムを解除するときに押します。

## ディスプレイ

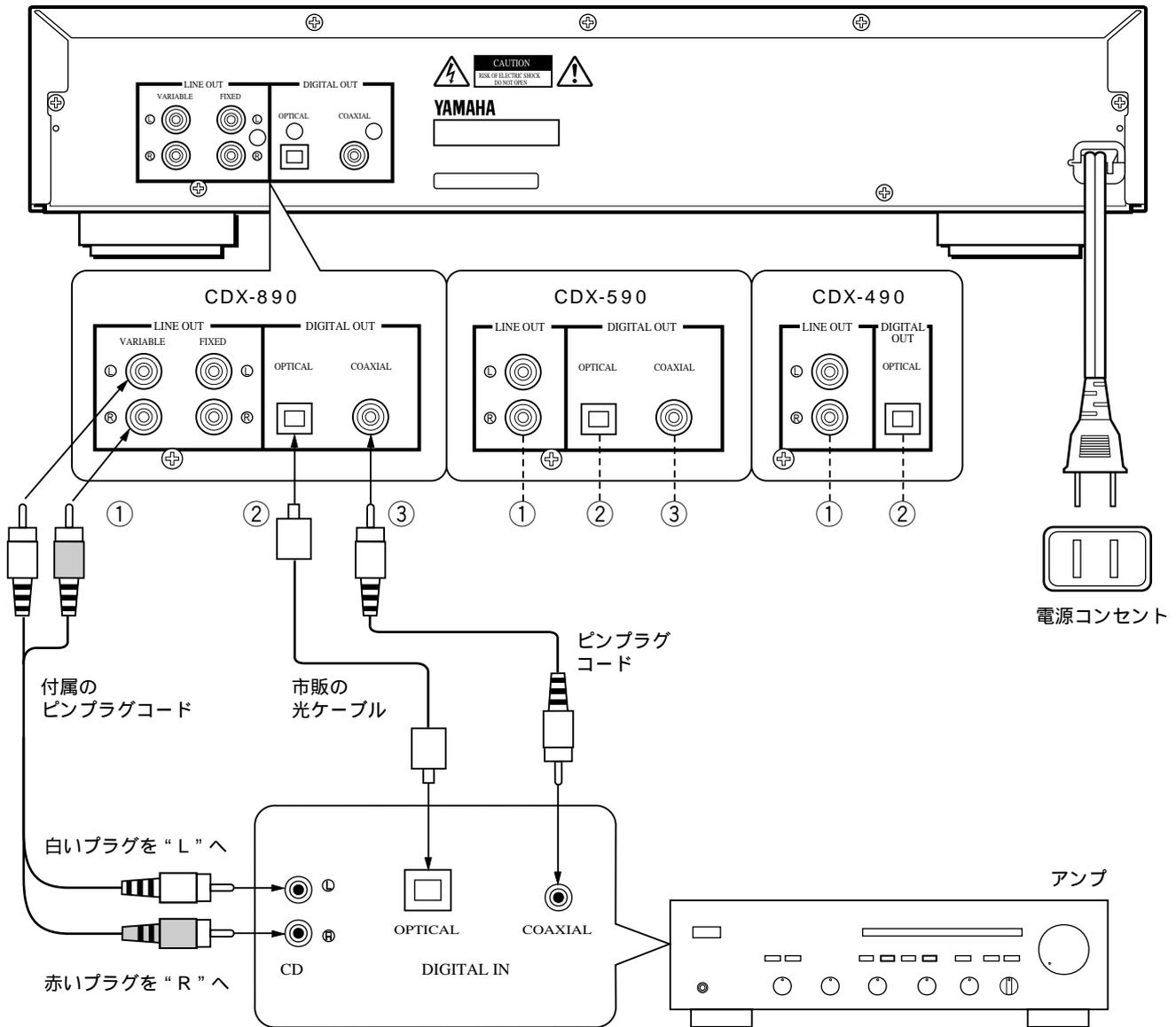


- ① RANDOM インジケータ  
ランダム演奏中に点灯します。
- ② PROGRAM インジケータ  
プログラムの設定時やプログラム演奏中に点灯します。
- ③ トラック (曲番) インジケータ  
演奏時やプログラム設定時に曲番を表示します。  
ディスクをセットして [OPEN/CLOSE] でディスクトレイを閉じると、数秒間そのディスクに収録されている総曲数を表示します。
- ④ TOTAL/REMAIN インジケータ  
[TIME]を押すごとに時間表示の内容が変わります。
- ⑤ INDEX インジケータ  
[INDEX]を押すと点灯します。  
P.15を参照してください。
- ⑥ PEAKインジケータ  
[PEAK]を押すと点灯します。  
P.19を参照してください。
- ⑦ タイムインジケータ  
演奏時間を表示します。
- ⑧ SINGLE REPEAT/FULL REPEAT インジケータ  
リピート演奏の種類が " SINGLE " シングルリピートか " FULL " フルリピートかを表示します。
- ⑨ アウトプットレベルインジケータ (CDX-590、CDX490のみ)  
LINE OUT 端子からの音声出力レベルの大きさ、さらにヘッドホンレベルの大きさを表示します。
- ⑩ テープインジケータ  
テーププログラムを使って録音するときはこのインジケータを点灯させます。
- ⑪ SPACEインジケータ  
曲間に4秒間のスペースを入れるとき点灯します。
- ⑫ ミュージックカレンダー  
ディスクに収録されている曲番を点灯表示します。

# 接続のしかた

接続をはじめる前に必ず、各機器の電源を切ってください。  
 接続するアンプによっては、端子名が異なるものがあります。  
 接続するアンプの取扱説明書も参照してください。

\*リアパネルはCDX-890です。



## 出力端子について

本機はアナログ (LINE OUT)、デジタル (DIGITAL OUT) の2系統の出力端子を装備しています。接続する機器に合わせて、使用する接続端子をお選びください。

### アナログ出力端子 ①

本端子は、付属のピンプラグケーブルを使ってアンプのCD (アナログ) 端子に接続します。

CDX-890にはVARIABLEとFIXEDの2系統の出力端子を装備しています。

接続する機器に合わせて、使用する端子をお選びください。  
 接続は、右チャンネル (R)、左チャンネル (L) を確認したのち、正しく接続してください。

### 光デジタル出力端子 ②

光デジタル入力端子を装備した機器と接続するときは、本端子のキャップを外し、アンプのCD (デジタル: オプティカル) 端子と接続します。接続の際は、市販の光 (オプティカル) ケーブルをご使用ください。

デジタル出力端子 (光/同軸) を使用するときは、**OUTPUT LEVEL** を最大に設定してください。

光デジタル出力端子を使用しないときは、ほこりなどの侵入を防ぐため、キャップをつけておいてください。

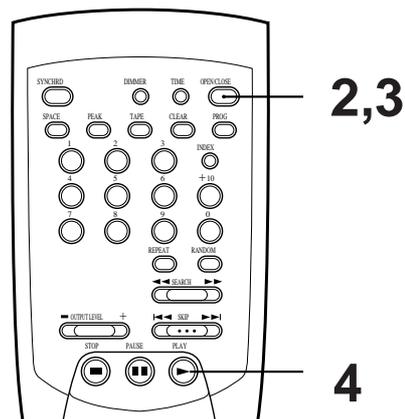
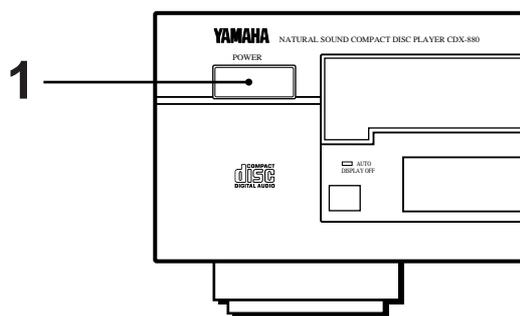
### 同軸デジタル出力端子 ③ (CDX-890、CDX-590のみ)

同軸のデジタル入力端子を装備した機器と接続するときは、本端子とアンプのCD (デジタル: 同軸) 端子を接続します。

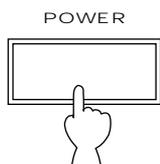
接続の際は、付属のピンプラグケーブルの片側、あるいは市販のピンプラグケーブルをご使用ください。

# 基本的な演奏

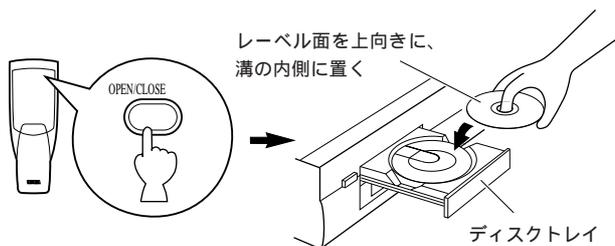
本書はリモコンによる操作を中心に説明しています。  
本体のフロントパネル上で操作する場合、対応するキーをご使用ください。



**1** **POWER** を押し、電源を入れます。

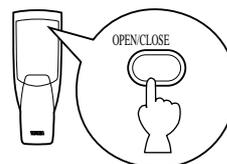


**2** **OPEN/CLOSE** を押してトレイを開け、ディスクをセットします。



**3** **OPEN/CLOSE** を押します。

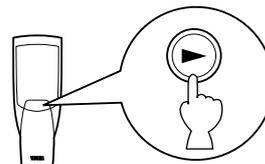
トレイが閉じます。



ディスクを読み込み、数秒間ディスクの情報を表示します。  
(下欄の“総演奏時間の表示について”を参照してください。)

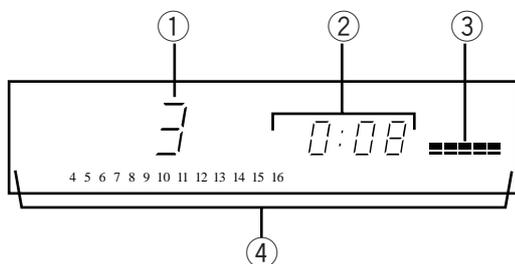
**4** **PLAY** を押します。

ディスクの最初から演奏がはじまります。



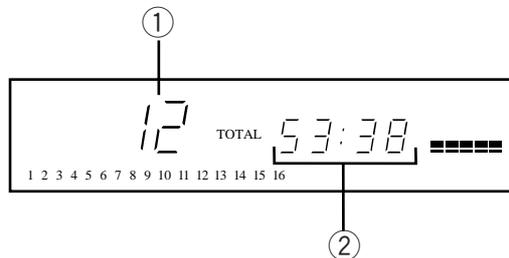
CDは従来のアナログレコ - ドやテ - プ再生時のような演奏前のノイズがほとんどありません。演奏スタートと同時に大音量となることがありますので、アンプのボリュームの位置にご注意ください。

## 演奏中の表示について



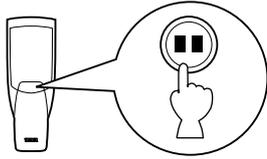
- ① 演奏中の曲番を表します。
- ② 演奏時間を表します。(詳しくは、P.12『演奏時間表示の切り替え』を参照してください。)
- ③ LINE OUT 端子からの音声出力レベルの大きさやヘッドホンレベルの大きさを表します。(CDX-590、CDX-490のみ表示します。CDX-890は表示しません。)
- ④ ディスクに収録されている曲番を表します。  
収録曲が 20 曲を越えるディスクの場合、21 曲目以降は表示されません。  
演奏を終えた曲番は順次消灯しますので、残りの曲番と曲数がひと目で確認できます。

## 総演奏時間の表示について



- ① 総曲数を表します。
- ② 総演奏時間を表します。  
**OPEN/CLOSE** を押してトレイを閉じたとき、ディスクの総曲数と総演奏時間を数秒間表示します。  
**PLAY**、**+10**、**1 ~ 0**、**RANDOM** を押したとき、またはトレイを手で押して閉じたときは演奏が自動的に始まり、総曲数、総演奏時間は表示しません。

## 一時的に演奏を止めるには



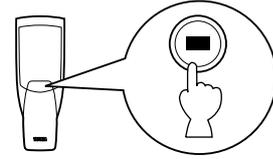
[PAUSE]を押します。

押したところで一時停止（ポーズ）します。

再び演奏をはじめるには[PAUSE] (もしくは[PLAY])を押します。

本体の[PLAY/PAUSE]でも同じ操作が可能です。

## 演奏を停止するには

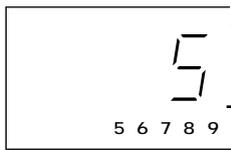
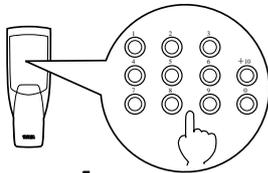


[STOP]を押します。

## 好きな曲を聞くには

### ダイレクト演奏

10キー [+10]、[1] ~ [0] で曲番を指定します。指定した曲の演奏が自動的にはじまります。



指定した曲番が表示される。

曲番10以上を指定するには

[+10]を押して10の位を決め、次に1の位を[1] ~ [0] ボタンで指定します。

(例) 曲番12

[+10] を押して  
[2] を押す。

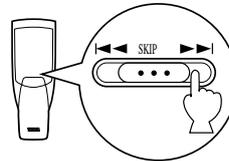
(例) 曲番24

[+10] を2回押して  
[4] を押す。

ディスクに収録されている曲番より大きな曲番を指定すると、最後の曲を演奏します。

### 飛び越し選曲

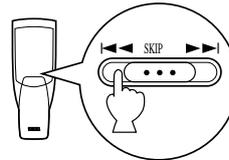
今、演奏している曲より後の曲を聞くには



1回押す。

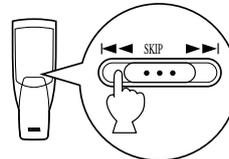
(押した回数だけ後の曲に飛び越します。)

今、演奏している曲の頭から聞くには



1回押す。

今、演奏している曲より前の曲を聞くには



2回続けて押す。

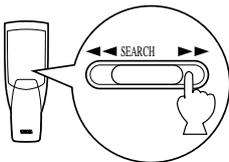
(押し続けると曲番1まで戻ります。)

飛び越し選曲は、ポーズ中や停止中にもできます。選曲が終わったら[PLAY]を押して演奏をはじめます。

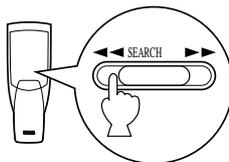
CDX-590、CDX-490では、本体のキーを使用する場合、押し続けると早送り、早戻し (SEARCH) になりますので、ご注意ください。

## 早送り、早戻しをするには

### 早送り



### 早戻し



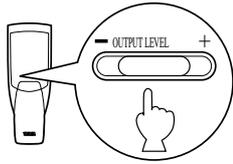
演奏中や一時停止中に、ディスクの内容を早送り、または早戻ししながら聞きたいところをさがすことができます。

演奏中に操作すると音が小さく聞こえます。

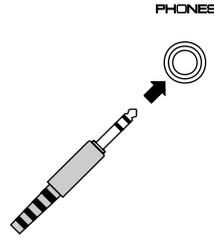
一時停止中に操作すると音は聞こえません。

押し続けている間、早送りします。押し続けている間、早戻しします。

# 音量を調節するには



## ヘッドホンで聞く場合



ヘッドホンを“ PHONES ” ジャックに接続します。

**OUTPUT LEVEL** で音量を調節します。

**+** 側を押し続けている間、本体背面のLINE OUT端子からの音声出力レベルが大きくなります。

**-** 側を押し続けている間、本体背面のLINE OUT端子からの音声出力レベルが大きくなります。

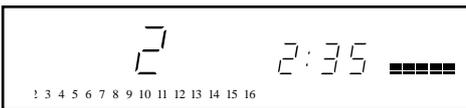
同時にヘッドホンの音量も調節できます。

CDX-890はLINE OUT VARIABLE端子からの音声出力レベルが調節できます。

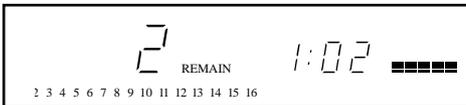
## 演奏時間表示の切り替え

**TIME** を押すごとに次のように切り替わります。

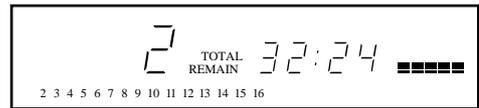
演奏中の曲の経過時間 (“表示なし”)



演奏中の曲の残り時間 (REMAIN)



今、演奏しているところからディスクの最後まで残り演奏時間 (TOTAL REMAIN)



ディスクの総演奏時間 (TOTAL)

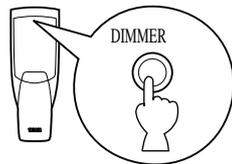
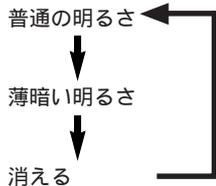


曲番 25、もしくはそれを越える曲を演奏する場合、その曲の残り時間は表示されません。

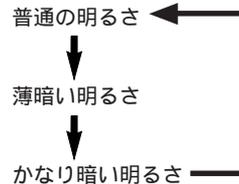
## ディスプレイの明るさの切り替え

**DIMMER** を押すごとにディスプレイの明るさが次のように切り替わります。

CDX-890、CDX-590 は

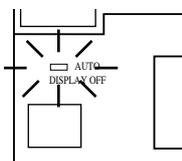


CDX-490 は



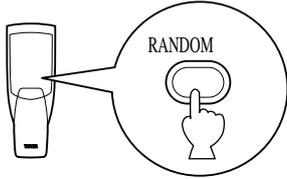
演奏中のみ消え、それ以外は薄暗い明るさで表示します。

ディスプレイの照明が消えている間、フロントパネルの AUTO DISPLAY OFF インジケータが点灯します。



# 曲を順不同に聞く（ランダム演奏）

[RANDOM] を押します。



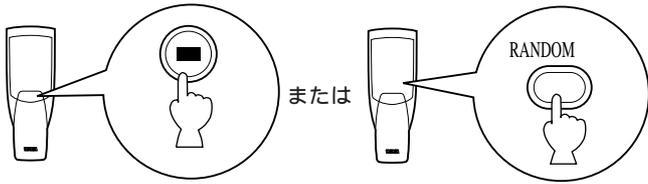
ランダムプレイはプログラムを設定しているときや、プログラム演奏中ではできません。

ランダムプレイ演奏中に [SKIP >>>] を押すと次に演奏される曲に移ります。 [SKIP <<<] を押すと演奏している曲の頭に戻ります。ランダムプレイ演奏中に電源を切り、その後タイマーセットなどにより再び電源が入れば、ランダムプレイが自動的にはじまります。ランダムプレイ演奏中には TOTAL REMAIN 時間は表示されません。（P.12 『演奏時間表示の切り替え』を参照してください。）

ディスプレイの曲番インジケータが回転したのち、本機がディスクの曲を順不同に演奏しはじめます。

## ランダムプレイの解除

[STOP] または [RANDOM] を押します。また [OPEN/CLOSE] を押してトレイを開けると解除されます。



# 繰り返し演奏する（リピート演奏）

[REPEAT] を押します。

押すごとにリピート演奏モードが変わります。

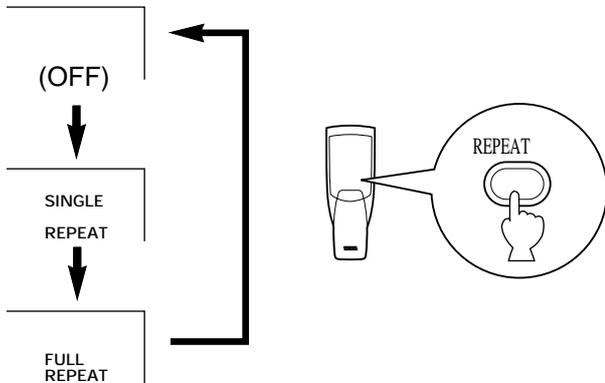
## シングルリピート

（ディスプレイに “SINGLE REPEAT” が点灯します。）  
指定した1曲、または演奏中の曲を繰り返し演奏します。

## フルリピート

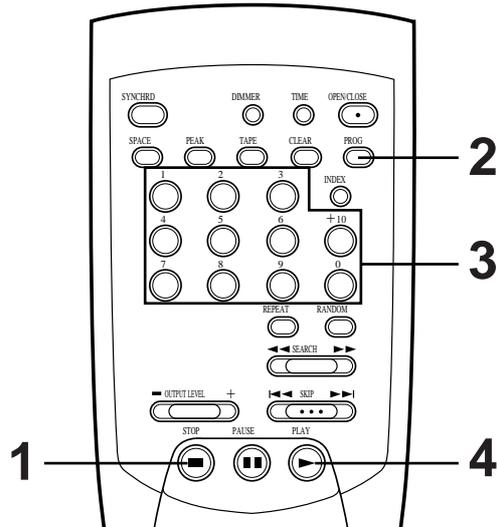
（ディスプレイに “FULL REPEAT” が点灯します。）  
ディスクまたはプログラムをした曲の全曲を繰り返し演奏します。  
ランダム演奏も同じ演奏順序でリピート演奏されます。

リピート演奏解除

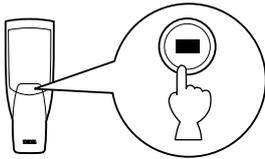


# 好きな曲を好きな順序で聞く（プログラム演奏）

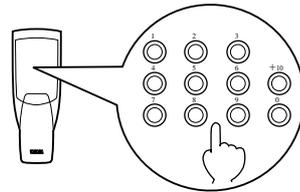
最大 25 曲までプログラムできます。



**1** [STOP] を押して停止状態にします。

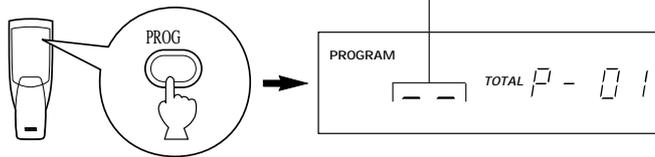


**3** プログラムする曲を10キー+10、[1] ~ [0] で選びます。

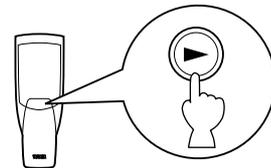


この手順を繰り返して好きな曲をプログラムしてください。同じ曲を2度以上プログラムすることもできます。

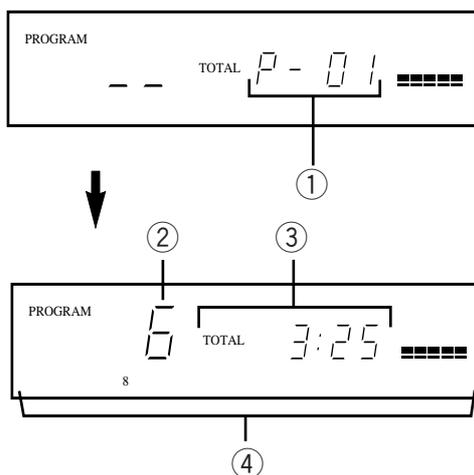
**2** [PROG] を押します。



**4** [PLAY] を押すとプログラム演奏がはじまります。



## プログラム設定中の表示



- ① 何番目にプログラムされるかを表す
- ② プログラムした曲番号
- ③ 今までプログラムした曲の総演奏時間
- ④ 今までプログラムしたすべての曲番

総演奏時間が 100 分を越えると下 2 ケタの数字しか表示されません。手順 2 において [PROG] を押したのち、ディスプレイに “P-0 1” が現われない場合は [TIME] を 1 回押してください。

**ご注意**

プログラムした曲の飛び越し選曲するには：  
[SKIP] (◀◀または▶▶) を押します。プログラムした曲の中だけで飛び越し選曲し、プログラムしていない曲には移りません。

早送り、早戻しについて：  
[SEARCH] (◀◀または▶▶) を押し続けるとプログラムしていない曲にも移ります。

曲番が 25、もしくはそれを越える曲番をプログラムした場合、総演奏時間は表示されません。

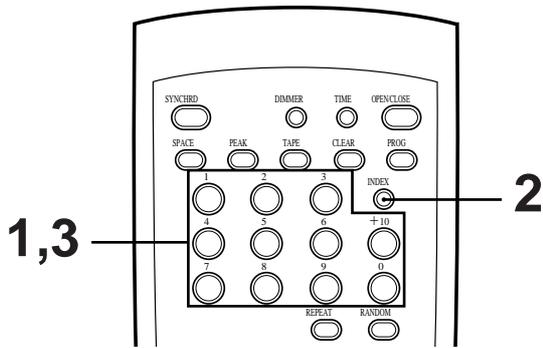
プログラム演奏を止めるには：  
[STOP] を押します。ディスプレイには最初にプログラムした曲番が出ます。演奏を再びはじめるには [PLAY] を押します。  
プログラムの最初から演奏がはじまります。

プログラムを解除するには：  
プログラム設定が終わったとき ([PLAY] を押す前)、または停止状態のときに [CLEAR] または [STOP] を押します。  
プログラムした内容はすべて消え、通常の演奏モードになります。また、トレイを開けたり電源を切るとプログラムは解除されます。

- プログラムを確認する、または訂正するには：  
この操作をするときは停止状態にしてください。
1. [PROG] を押します。
  2. [SKIP] を押すごとにプログラムした曲が順次表示され、プログラムを確認できます。  
プログラムを訂正するときは、[SKIP] (◀◀または▶▶) を押して訂正したい曲番を表示させ、正しい曲番を 10 キー [+10]、[1] ~ [0] で入力します。訂正前の曲番は消え、新しい曲番が表示されます。
  3. [PROG] を押します。プログラムの訂正が完了しました。訂正後すぐに演奏をはじめるときは [PROG] のかわりに [PLAY] を押します。

# インデックス番号を指定して聞きたいところを演奏する (インデックスサーチ)

インデックス番号が記録されたディスクでは、インデックス番号を指定してそこから演奏をはじめることができます。



**1** 10 キー [+10]、[1] ~ [0] で曲を選びます。

**2** [INDEX] を押します。“INDEX” が表示されます。

**3** 10 キー [+10]、[1] ~ [0] でインデックス番号を指定します。

インデックスについて  
1つの曲をさらに小さな部分 (たとえばクラシック曲の楽章など) に区切り、番号付けしたものがインデックスです。インデックスが記録されているディスクには、解説書に [INDEX] マークがついています。

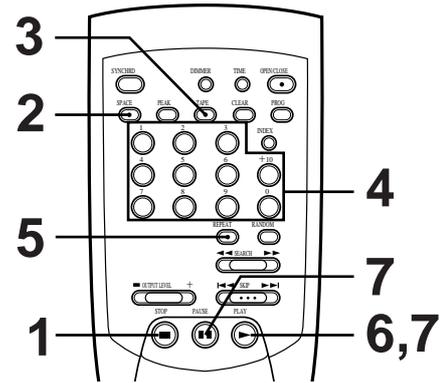
ディスクに記録されているインデックス番号より大きな番号を指定すると、最後のインデックスから演奏がはじまります。  
ディスクによってはインデックス番号の少し手前から演奏がはじまることがあります。  
インデックスが記録されていないディスクでインデックス番号を指定すると、選ばれている曲の頭から演奏がはじまります。

通常の演奏状態に戻すには、もう一度 [INDEX] を押します。  
“INDEX” がディスプレイから消えます。

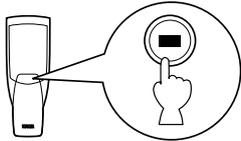
# 本機のプログラム機能を使ってテープ録音する (テーププログラム)

ディスクをテープに録音するとき便利なプログラム機能です。テープの長さを本機にメモリーさせることにより、テープの残り時間を最少限に抑えてプログラムすることができます。

曲順を変えることなく、自動選曲録音したいときは (オートテーププログラム)



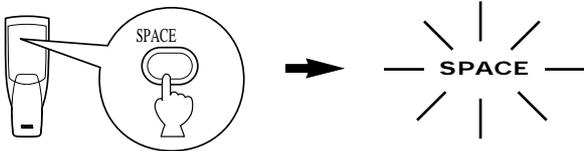
**1** [STOP] を押して停止状態にします。



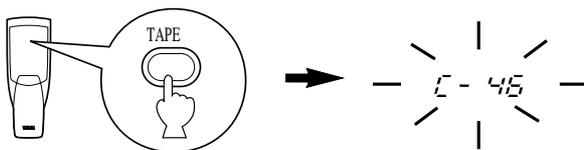
デッキ側で録音レベルの設定をする際、本機のピークサーチ機能を利用すると便利です。  
(詳しくは、P.19『ディスク内の最大の音量をさがす (ピークレベルサーチ)』を参照してください。)

**2** 必要であれば [SPACE] を押します。

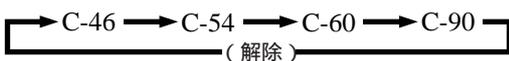
各曲間に約 4 秒間のスペースが挿入されます  
(詳しくは、P.19『オートスペースについて』を参照してください。)



**3** [TAPE] を押します。



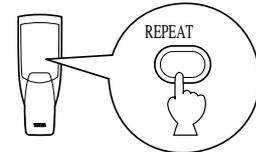
[TAPE] を押すごとに、テープの長さ (テープの時間) の表示が次のようになります。使用するテープの長さと同じものを選んで下さい。



**4** 使用するテープの長さが手順 3 で選択できない場合、10キーでテープの長さを入力します。

(例) C-64 のカセットテープ (片面 32 分) の場合、まず手順 3 で [TAPE] を押した後、[6]、[4] を押します。最大 99 分まで設定できます。テープサイズを変更するときには続けて入力します。

**5** [REPEAT] を押します。



本機がディスクの曲順を変えずにテープサイズに合わせて A 面、B 面にプログラム (最大 24 曲まで) します。

**6** デッキを操作してテープの A 面に録音を開始すると同時に、本機の [PLAY] を押します。オートテーププログラム演奏がスタートします。

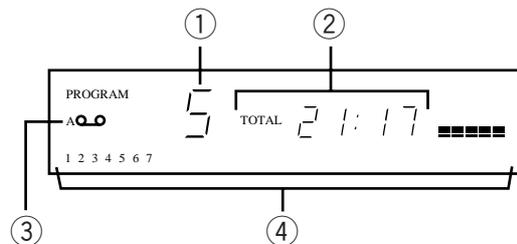
**7** テープの A 面に録音する曲の演奏が終了すると本機は B 面演奏の曲番表示に変わり、一時停止 (ポーズ) 状態になります。デッキを操作してテープの B 面を録音状態にし、本機の [PAUSE] または、[PLAY] を押します。残りのプログラム演奏がスタートし、テープ B 面に録音が始まります。

## ご注意

使用するテープの時間がディスクの総演奏時間に対して余裕が少ないときは、録音できない曲がでることがあります。

(例) 総演奏時間が 45 分 50 秒に対し、カセットテープが C-46 (片面 23 分) であっても録音できない曲がでることがあります。

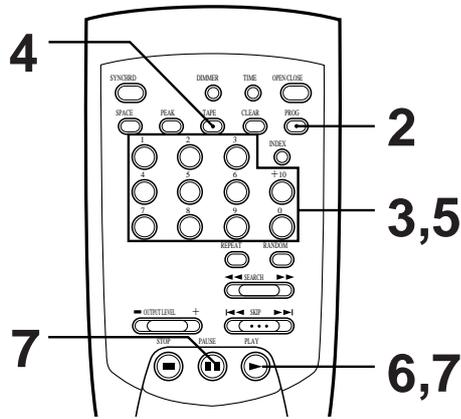
全曲収録するためには、十分な時間のテープを使用してください。手順 5 において [REPEAT] を押したのち、A 面、B 面それぞれのプログラム結果がディスプレイに表示されます。



- ① プログラムされた総曲数を A 面、B 面ごとに続けて表示した後、A 面にプログラムされた最初の曲番を表示します。
- ② プログラムされた曲の総演奏時間
- ③ A 面または、B 面を表します
- ④ プログラムされたすべての曲番

使用するデッキがシンクロ録音対応のものならば、手順 6 と 7 にてシンクロ録音が可能です。(詳しくは、P.20『ディスク演奏に合わせて自動的にテープ録音をする (シンクロ録音)』を参照してください。)

曲順を変えてテープ録音したいときは  
(マニュアルテーププログラム)



**1** P. 16 『オートテーププログラム』の手順 1, 2, 3, 4 と同じ操作をします。

**2** [PROG]を押します。

点滅します。

**3** テープA面に録音したい曲を好きな順に、10キーで選びます。

曲番を押すごとに片面の残り時間が表示されます。入力済みの曲番は点灯、まだ入力されていない曲番で、テープ残り時間に対して入力可能な曲番が点滅します。また、テープ残り時間に対して入力できない曲番は消灯します。同じ曲を2度以上選ぶことも可能です。

**4** [TAPE]を押します。  
ポーズ状態が挿入され、テープB面に切り替わります。

**5** テープB面に録音したい曲を好きな順に、10キーで選びます。

**6** デッキを操作してテープのA面に録音を開始すると同時に、本機の[PLAY]を押します。  
テーププログラム演奏がスタートします。

**7** テープA面に録音する曲の演奏が終了すると、本機はB面演奏の曲番表示に変わり、一時停止(ポーズ)状態になります。デッキを操作してテープB面に録音ができるようにして、本機の[PAUSE]または[PLAY]を押します。  
テープB面に録音する残りのプログラム演奏がスタートします。

**ご注意**

テープ片面の残り時間を越える曲番を入力すると“Err”(エラー)表示をして受け付けません。残り時間内に収まる曲番を点滅している曲番の中から選んで再度入力します。手順3と5にて、曲番を選ぶごとにその曲番とテープの残り時間が表示され、次のプログラムの入力待ちの表示“P-”に変わります。使用するデッキがシンクロ録音対応のものならば、手順6と7にてシンクロ録音が可能です。(詳しくは、P. 15 『ディスク演奏に合わせて自動的にテープ録音する(シンクロ録音)』を参照してください。)

**テーププログラムについて**

最大25曲(P-01からP-25)までプログラムすることができます。ただし、一時停止状態の挿入も1プログラムとして数えられます。(この場合、プログラムできる曲は実質24曲となります。)プログラムできる曲番は最大24までです。25曲以上入ったディスクの場合、曲番25、もしくはそれを越える曲番はプログラムできません。

**テーププログラムの解除**

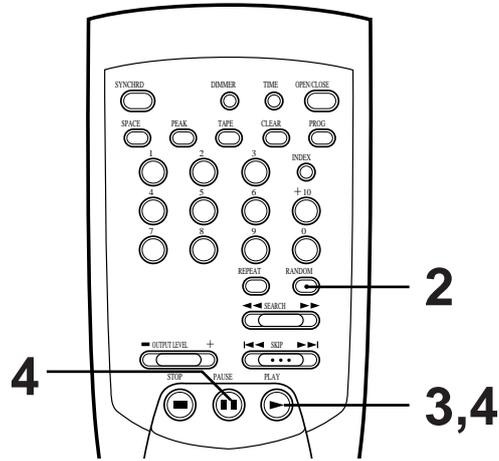
[STOP]を押します。  
[CLEAR]を押します。

“PROGRAM” “AQOB” 消灯

**テーププログラムのチェック・変更・追加**

(P. 15 『プログラムを確認する、または訂正するには:』を参照してください。)

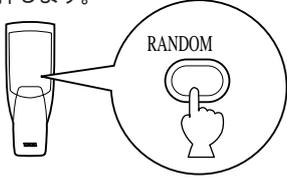
本機に順不動に自動選曲させて録音したいときは  
(ランダムテーププログラム)



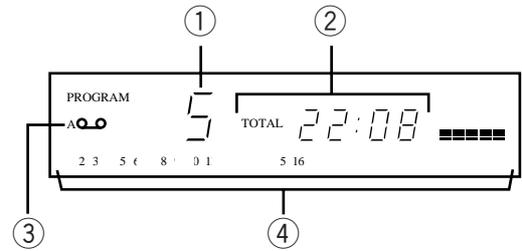
**ご注意**

ランダムテーププログラムでは、使用するテープの時間がディスクの総演奏時間に対して余裕の少ないときは、ランダム組み合わせにより収録できない曲がでることがあります。そのときは、**[TAPE]**と**[RANDOM]**を幾度か押して、全曲が収録される組み合わせにしてから録音を開始してください。また、テープ長を変更するときは、**[TAPE]**を押してください。

手順2において**[RANDOM]**を押したのち、A面、B面それぞれのプログラム結果がディスプレイに表示されます。

- 1 P. 16 『オートテーププログラム』の手順 1, 2, 3, 4 と同じ操作をします。
- 2 **[RANDOM]** を押します。  


自動的に本機がディスクの曲を順不同にして、テープの片面時間に収まる曲の組み合わせで A面、B面にプログラム (最大 24 曲まで)をおこないます。
- 3 デッキを操作してテープのA面に録音を開始すると同時に、本機の**[PLAY]**を押します。  
ランダムテーププログラム演奏がスタートします。
- 4 テープA面に録音する曲の演奏が終了すると、本機はB面演奏の曲番が変わり、一時停止 (ポーズ) 状態になります。デッキを操作してテープB面に録音ができるようにし、本機の**[PAUSE]**または**[PLAY]**を押します。  
テープB面に録音する残りのプログラム演奏がスタートします。



- ① プログラムされた総曲数をA面、B面ごとに続けて表示した後、A面にプログラムされた最初の曲番を表示します。
- ② プログラムされた曲の総演奏時間
- ③ A面または、B面かを表します
- ④ プログラムされたすべての曲番

使用するデッキがシンクロ録音対応のものならば、手順 3 と 4 にてシンクロ録音が可能です。(詳しくは、P. 20 『ディスク演奏に合わせて自動的にテープ録音する。(シンクロ録音)』を参照してください。)

# テープ録音に便利な機能について

## オートスペースについて

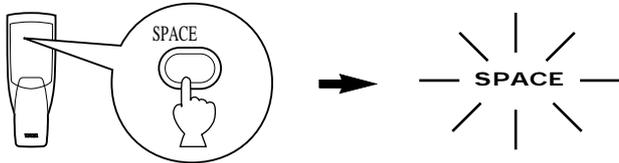
曲間が十分でないディスクの場合、そのままテープに録音しても、テープ演奏時にうまく選曲ができないことがあります。録音時に、**[SPACE]**を押して各曲間に約4秒間のスペースを挿入するとデッキ側の選曲ミスを防ぐことができます。

TOTAL TIME、TOTAL REMAIN TIME はスペース時間を加えた時間表示に変わります。

ディスクにもともと約4秒間の曲間がある場合や、テープの選曲再生をしない場合は、オートスペースを入れる必要はありません。

オートスペースの解除

もう1度、**[SPACE]**を押すと解除されます。



## ディスク内の最大の音量をさがす（ピークレベルサーチ）

ディスク内の最大の音量を自動的にさがし、繰り返し演奏します。  
この機能はテープに録音する際、デッキの録音レベルを調整するのに役立ちます。

ピークレベルサーチを解除するには**[STOP]**を押します。

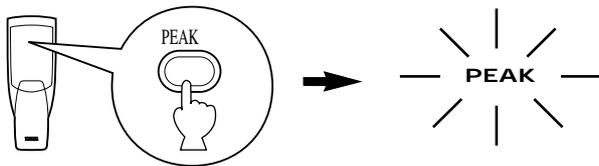
1 **[STOP]**を押して停止状態にします。

2 **[PEAK]**を押します。

ご注意

同じディスクでピークレベルサーチを2回以上おこなった場合、同じ部分が選ばれないことがあります。これは内蔵のマイクロコンピュータが、そのつどランダムに何ヶ所かのポイントを選び出し、その中で音量レベルの比較をおこなうためです。

ピークレベルサーチはプログラムが設定された状態でも可能です。その場合、プログラムされた曲の範囲内でサーチがおこなわれます。



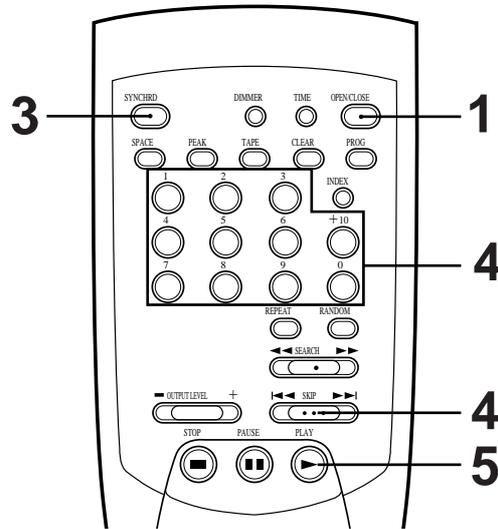
本機がディスクのピークレベルを自動的にさがします。  
サーチ終了後、その部分を繰り返し（リピート）演奏します。  
この演奏を聞きながら、デッキ側で録音レベルを調整します。

# ディスク演奏に合わせて自動的にテープ録音する (シンクロ録音)

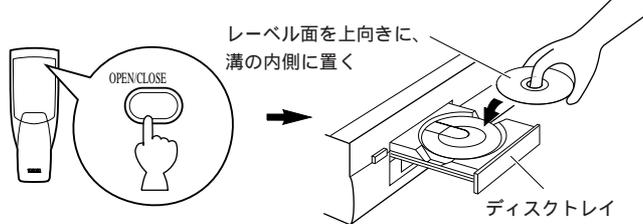
ディスクの演奏に合わせて自動的にテープ録音をはじめることができます。この機能により、テープ録音が簡単かつ正確におこなえます。

シンクロ録音には、シンクロ録音対応のヤマハテープデッキが必要です。(使用するデッキがシンクロ録音対応かどうかは、デッキの取扱説明書を参照してください。)

シンクロ録音では、本機に付属のリモコンからの信号を、本機とデッキが同時に受信する必要があります。そのため本機とデッキは必ず近づけて設置して下さい。



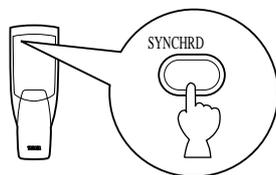
## 1 ディスクをセットします。



## 2 デッキにテープをセットします。

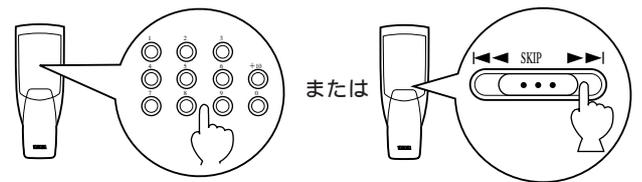
テープの端から録音するときはテープは完全に巻き戻した状態にしてください。  
本機のピークレベルサーチ機能は、デッキの録音レベルを調整するのに便利です。(詳しくは、P. 19『ディスク内の最大の音量をさがす(ピークレベルサーチ)』を参照してください。)

## 3 [SYNCHRO] を押します。

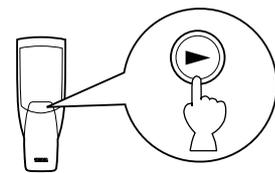


本機がPAUSE状態になりデッキはREC/PAUSE状態になります。  
ディスプレイのタイムインジケーターが点滅します。

## 4 必要であれば、あらかじめ希望する曲を選曲しておきます。



## 5 [PLAY] を押します。



ディスクの演奏とテープ録音が始まります。

ディスクの演奏より少し先に録音が始まります。

### ご注意

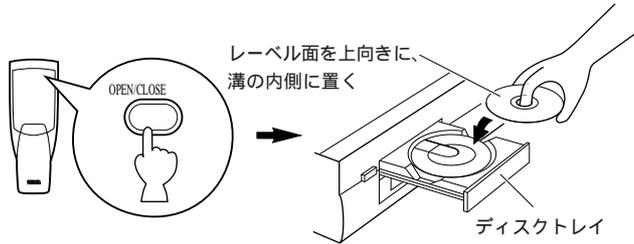
録音を終了、または停止させるには、テープデッキ側で適切な操作をしてください。  
プログラムされた曲を録音する場合にも、シンクロ録音が使えます。(プログラムの手順はP. 14~15を参照してください。)  
この機能はテーププログラム機能と合わせて使用できます。  
B面に録音するときは、テープB面に録音できるようにし、[SYNCHRO] を押します。本機はPAUSE状態になり、デッキはREC/PAUSE状態になります。  
(テーププログラムの方法はP. 16~18を参照してください。)

# 設定した時間に演奏を開始する（タイマ - 演奏）

市販のオ - ディオタイマ - と組み合わせることで、設定した時間にディスクの演奏を開始することができます。

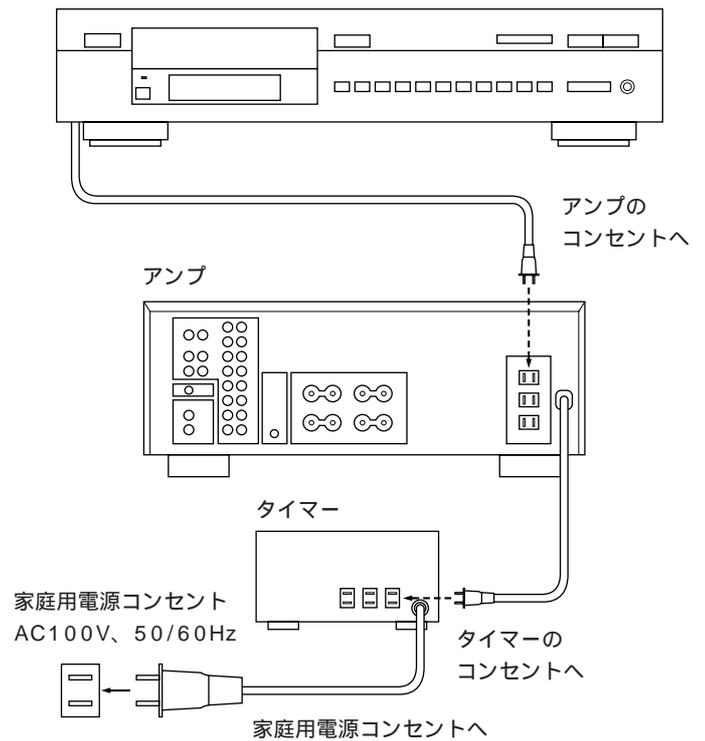
**1** 本機とアンプの電源を入れます。

**2** **OPEN/CLOSE** を押してトレイを開け、ディスクをセットします。



**3** 一度、演奏を開始して、タイマ - 演奏を開始する際の音量を、アンプで調節してください。  
ランダム演奏、またはリピ - ト演奏の設定も可能です。

**4** タイマ - の設定をします。  
タイマ - で演奏開始時間、終了時間を設定してからタイマ - をセットします。  
タイマ - の時間設定は、タイマ - の取扱説明書を参照してください。



以上の操作により、設定された時間になれば、演奏がはじまります。

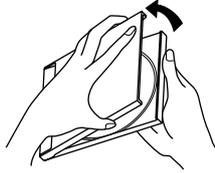
# ディスクの取り扱い

本機は、コンパクトディスク( CD方式 )専用のプレーヤーです。  
COMPACT DISC DIGITAL AUDIO  
マークのあるコンパクトディスクをお使いください。

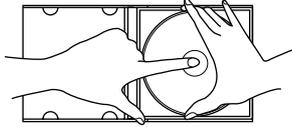
規格外のディスクはご使用にならないでください。  
規格外のコンパクトディスクを本機にセットしますと、正しく演奏できないばかりでなく、ディスクトレイが開いたり、異音の発生や故障の原因となる場合があります。

## ケースからの取り出しかた

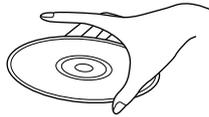
1. 右手でケースの両横側面を支え、左手で上下側面を持ってフタを開けます。



2. 左手の指先でケースのセンターホルダーを押さえ、右手でコンパクトディスクを持ち上げます。



3. できるだけコンパクトディスクの縁を持つようにして、表面に触れないように扱ってください。



## 取り扱いの注意

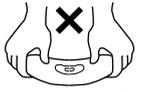
信号記録面に指紋やほこりがつきましたら、柔らかな布などで軽く内側中心から外側へ直角方向に拭いてください。コンパクトディスクにはレコード盤のような音溝はありません。ほこりや汚れは柔らかい布で軽く拭き取るだけで十分です。多少のほこりや汚れは、音には影響ありません。



レーベル面に紙などを貼ったり、ボールペンで文字を書かないでください。



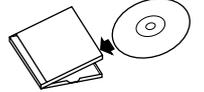
曲げたりしないでください。



信号記録面に傷をつけないよう、特にケースからの出し入れには注意してください。



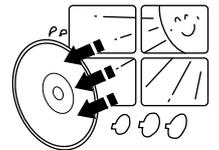
演奏を終わったディスクは必ずケースに入れて保管してください。



レコードスプレー、帯電防止剤、ベンジン、シンナーなどで絶対に拭かないでください。コンパクトディスクはプラスチック製です。これらの化学薬品で表面が侵されることがあります。また、水で拭くことも避けてください。



直射日光の当たる場所や、高温多湿な場所に長時間置くとディスクが変形する原因となりますので置かないでください。



# 故障かなと思ったら

本機をご使用中に正常に動作しなくなったときは、下記の事項をご確認ください。その上で正常に動作しない、あるいは下記以外で何か異常が認められた場合は、本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点宛、お問い合わせ、サービスをご依頼ください。

どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすればOKです
電源スイッチを押しても電源が入らない	電源プラグの差し込みが不完全	電源プラグをコンセントにしっかり差し込みなおしてください
ディスクを入れても演奏できない	ディスクが裏がえしにセットされている	ディスクのレーベル面を上にして入れてください
音が出ない	出力コードの接続が不完全	接続を確認してください
	アンプの操作が間違っている	アンプのスイッチの位置を確認してください
	LINE OUT 端子を使って接続している	OUTPUT LEVEL で音量を調節してください
音飛びがする	本機が振動やショックを受けている	設置場所を変えてください
	ディスクがひどく汚れている	クリーニングしてください
ブーンというハム音が出る	出力コードのプラグの接続不良	出力コードのプラグをしっかりと差し込みなおしてください
チューナーにノイズが入る	本機とチューナーの設置場所が近い	チューナーから遠ざけるか、本機の電源を切ってください
ヘッドホンから音が出ない	OUTPUT LEVEL が絞られている	OUTPUT LEVEL で音量を調節してください
リモコンユニットでは操作できない	乾電池が消耗している	乾電池を2本とも交換してください
	リモコンユニットが受光部に向いていない	リモコンユニットを受光部に向けてキーを押してください
	受光部に強い日光や照明（インバータ蛍光灯など）が当たっている	受光部に強い光が当たらないように本機の置き場所や方向、または照明の位置をくふうしてください

## 参考仕様

形式	コンパクトディスク・デジタル・オーディオ・システム	
オーディオ特性		
周波数特性	CDX-890 : 2Hz ~ 20kHz ± 0.3dB	
	CDX-590 : 2Hz ~ 20kHz ± 0.5dB	
	CDX-490 : 2Hz ~ 20kHz ± 0.5dB	
高調波歪率 (1kHz)	CDX-890 : 0.0020%	
	CDX-590 : 0.0025%	
	CDX-490 : 0.003%	
S/N比	CDX-890 : 118dB (EIAJ)	
	CDX-590 : 115dB (EIAJ)	
	CDX-490 : 105dB (EIAJ)	
ダイナミックレンジ	CDX-890 : 98dB以上	
	CDX-590 : 98dB以上	
	CDX-490 : 95dB以上	
ワウ・フラッター	測定検知限以下	
出力レベル (1kHz 0dB)	2 ± 0.5Vrms	
ヘッドホン出力電圧 (150 負荷、-20dB)	CDX-890 : 300mV ± 60mV	
	CDX-590 : 200mV ± 40mV	
	CDX-490 : 200mV ± 40mV	

総合	
電源	AC100V 50/60Hz
消費電力	10W
外形寸法 (W×H×D)	CDX-890 : 435×98×281mm
	CDX-590 : 435×96×272mm
	CDX-490 : 435×96×272mm
重量	CDX-890 : 5.9kg
	CDX-590 : 3.8kg
	CDX-490 : 3.8kg
付属品	出力コード リモコンユニット 単3乾電池 (SUM-3) 2本

仕様および外観は改良のため変更をすることがあります。

# ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用頂けるためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

## 保証期間

お買い上げ日より1年間です。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間が過ぎているときは

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

修理料金の仕組み

技術料

故障した製品を正常に修復するための料金です。

技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。

部品代

修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

出張料

製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

別途、駐車料金をいただく場合があります。

補修用性能部品の最低保有期間は

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年（テープデッキは6年）です。この期間は通商産業省の指導によるものです。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

製品の状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。

品番、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品（下記参照）が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。

本機を末長く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお勧めします。

摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

## 摩耗部品の一例

ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

## お客様ご相談センター

（ヤマハAV製品に対するお問い合わせ窓口）

TEL (03)5488 - 5500

## ヤマハ株式会社

〒430 浜松市中沢町10-1

AV機器事業部

営業部

TEL(053)460 - 3451

品質保証室

TEL(053)460 - 3405

# YAMAHA

住所および電話番号は変更になることがあります。

## ヤマハ電気音響製品サービス拠点

（ヤマハAV製品の故障に関するご相談窓口および修理受付、修理品お持ち込み窓口）

北海道	札幌市中央区南十条西1-1-50 〒064 ヤマハセンター内 TEL(011)512-6108
仙台	仙台市若林区卸町5-7 〒983 仙台卸商共同配送センター3F TEL(022)236-0249
首都圏	川崎市中原区木月1184 〒211 TEL(044)434-3100
東京	(お持ち込み修理のみ取扱い) 東京都港区高輪2-17-11 〒108 TEL(03)5488-6625
浜松	浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内 〒435 TEL(053)465-6711
名古屋	名古屋市中川区玉川町2-1-2 〒454 ヤマハ(株)名古屋流通センター3F TEL(052)652-2230
大阪	吹田市新芦屋下1-16 〒565 ヤマハ(株)千里丘センター内 TEL(06)877-5262
広島	広島市安佐南区西原6-14-14 〒731-01 TEL(082)874-3787
四国	高松市丸亀町8-7 〒760 ヤマハミュージック高松店内 TEL(0878)22-3045
九州	福岡市博多区博多駅前2-11-4 〒812 TEL(092)472-2134

## 愛情点検



長年ご使用の本機の点検を！

### こんな症状はありませんか？

電源コード・プラグが異常に熱い。  
コゲくさい臭いがする。  
電源コードに深いキズか変形がある。  
製品に触れるとビリビリと電気を感じる。  
電源を入れても正常に動作しない。  
その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。  
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。